

生きる力を育む本との出会いを支える

子どもの読書離れ、国語力の低下が進む中、子どもがあらゆる機会・場所で意欲的に読書を楽しむ環境整備のため、南部町で平成17年からスタートした読書活動推進計画。現在までの活動と今後の取り組みを紹介します。



ブックスタート

読書離れと南部町の現状

平成13年に「子どもの読書活動推進に関する法律」、平成17年に「文字・活字文化振興法」が公布・制定され、読書活動の推進が課題となっています。

子どもが生きる力を育み、人間形成に大きな影響をあたえる読書。しかし近年、子どもの読書環境は大きく変化しました。

小・中・高校生を対象に行われている読書調査では、1ヶ月の平均読書冊数は平成16年の調査で、高校生7・7冊、中学生3・3冊、小学生1・8冊と高水準を維持しています。しかし一方で、1ヶ月間に全く本を読まなかった不読者数調査では、高校生43%、中学生19%、小学生7%と高校生がもつとも多くなっており、これによって、年齢が上がるにつれて、本を読む人と全く読まない人の二極化が進んでおり、全体とし

ては読書離れが進んでいることが伺えます。NOP（米調査機関）による1週間あたりの読書時間は、世界平均で6・5時間、1位のインドで10・7時間、日本は29位で4・1時間と世界平均よりも低く、1位のインドの半分以下となっています。

また、読書離れによる知識水準の低下が危惧されており、OECD加盟国41ヶ国の15歳児を対象とした読解力調査でも、日本の子どもの読解力は年々低下傾向にあります。

これは、インターネット・携帯電話等、電子メディアの普及やテレビゲーム・DVDなどの映像文化の進歩や普及によって、本への関心が薄れたことが要因に挙げられます。

そうした中、鳥取県は子どもの読書活動の推進を積極的に行的っており、県内の小・中・高等学校の朝読書実施率は、小学校98%、中学校87%と、全国平均の小学校47%、中学校43%を大きく上回っています。

南部町でも、合併前の西伯町、会見町の頃から、ブックスタートや朝読書など、学校や図書館がそれぞれ積極的に読書推進活動を行っており、合併後も活動は継続されています。

南部町の読書推進活動

ブックスタート・子育て絵本進呈事業

町内の乳幼児全員に7ヶ月検診時に2冊、10ヶ月・1歳半・3歳検診時におすすめ本リストの中から2冊を選んで絵本を贈っています。



朝読書

小・中学校の始業前10分間に、児童・生徒がそれぞれ好きな本を黙って読みます。読み聞かせなども、保護者やおはなし・ドンなどのボランティアで行われています。



読書まつり

小学生とその保護者を対象に読書推進を呼びかけるお祭り。今年から読書推進計画に組み込まれ、対象を保育園から中学校までに広げて行われます。



おはなし・ドン

お話のボランティアグループ。毎年2回の定期公演では、人形劇や読み聞かせなど本に関する催し物を行います。学校や育児サークルで読み聞かせも行っています。



地区公民館での読み聞かせ

平成17年から、東西町地区の公民館祭りで、子育ての経験を生かして、地域の大人が地元の子供達に絵本の読み聞かせを行っています。



心おどる展示

幅広い読書のきっかけ作りを目指して、町立図書館で四季や行事に合わせて月ごとにテーマを決め、関連する本のコーナーを設置しています。



町の活動は、平成12年に西伯小学校が読書活動優秀校として文部省から、平成16年にはおはなしドンの活動が読書推進運動協議会から、平成17年に南部町立図書館が子どもの読書活動優秀実践図書館、平成18年に会見小学校が読書活動優秀実践校として文部科学大臣から表彰を受けており、全国でも高い評価を得ています。

子どもの読書活動推進計画

平成18年5月18日、初めて南部町子どもの読書推進計画に基づいて行われた、子どもの読書活動推進委員会で、委員長となった船越延子さん（南部中学校長）は、「町

の関係機関が連携して、町全体で貸し出し冊数を増やしていきたい」と思っています。「南部町子どもの読書推進計画」は、法律の整備と併せ、南部

の子どもの読書活動を全町で推進する体制の基盤となるものを策定しようと、町内の保育園、小中学校、保護者会、PTA、子どもに関わる行政担当課で構成された策定委員会が中心となって検討が行われ、平成17年10月南部町読書活動推進計画が策定されました。

この計画は、読書活動の機会の提供と充実、環境の整備、活動を支える人材の育成や、活動推進のため行政・学校・家庭などの連携強化などによって、地域を挙げて

読書活動を推進し、豊かな感性を持った子どもの育成を目指して、平成17年から平成21年の5ヶ年を計画期間としています。

すべての子どもが本の楽しさを知るために

子どもの読書推進計画に基づいて行われている活動は、ブックスタート、おはなし会、読書まつりなど。いずれも子どもが本に接する機会をできるだけ増やそうとするものです。

子どもが進んで読書を行うようになるには、乳幼児期から読書に親しむことができるような環境づくりが必要です。子ども自身が本

の楽しさを知るきっかけを作り、深めるため、子どもが興味を持ち、感動する本を身近に整えることが必要です。

学校での読書活動はもちろん、今後は、地域や家庭でも本に親しんでもらおうと、「親子ふれあい読書」や「読書まつり」などを企画しています。

子どもの読書活動を推進するためには、皆さんの理解と協力が必要です。まずは、子どもが小さいときから本を読み聞かせるなど、子どもが読書に親しむきっかけづくりをしていくことが大切です。本は知らなかった世界を教え、知っている世界を一層広げてくれます。

子ども達が楽しいと、自分たちも楽しくなります

南部町の様々な読書活動をサポートされているおはなし・ドンの皆さんに活動についてお話を聞きました。



公演に使う人形はおはなし・ドンの手づくりです

人が集まってスタートしました。母体に図書館があるのでとても活動しやすいです

もともとの積み重ねもあったと思いますが、推進計画ができて、学校での取り組みが熱心になったと感じます。子どもたちのおはなしを聞く姿勢もよくなったし、町で会っても声をかけてもらえ、子ども達との距離が近くなってうれしく思います。

おはなしに親しむことで、心が豊かになってほしい。小さい時におはなしを聞いて育つと、大人になっても懐かしさが残り、自分が親になった時に小さい頃を思い出しながらわが子にお話をしあげることができそうです。私達のおはなしをきいて子ども達がほっとする気持ちを残せたらと思います。

おはなし・ドン 定期公演

7月8日(土)
午後7時30分
さいはく公民館
南部町読書まつりの
前夜祭として公演し
ます。人形劇「うぬ
ぼれねずみ」などを
上演します。

南部町の活動について、住民の方、取り組みを取材にいられた全国のブックスタート活動を支援するNPOの方からもお話を伺いました。

親子で図書館を利用している西村奈穂美さん・盟斗くん



まだ10ヶ月ですが、本が好きみたいです。まだ話は分からなくても、絵本をめくって色が変わったりするのが楽しいみたいです。噛んだり、触ったりするのも子どもにとっては、本に親しむことだと思いますし、ブックスタートでもらった本も大好きで、とても良い制度なので続けていってほしいと思います。

主人や上のお兄ちゃんもこの子に本を読んであげています。

プロの方のように上手にはできませんが、同じお話でもテレビよりも自分の声で読んであげたいと思っています。

特定非営利活動法人ブックスタート 出原道恵さん(左)・鎌田まり子さん(右)



いろいろな地域の支援をしますが、どこも暖かい気持ちでブックスタートをおこなっておられ、南部町でもそれを感じられました。

西伯町・会見町の合併によって新たなものができあがっていると感じました。合併や財政難などの事情で、取り組みが続けられなかった所も多くありますが、南部町のような例を他の地域にも伝えていきたいと思っています。図書館や健康福祉課、町民生活課など、立場を超えて子育てを応援しておられ、この事業を良くしようとタッグを組まれていることはすばらしいと思います。